



物流ニッポン

2008年(平成20年)

5 | 22 (木)

発行/月曜日・木曜日 第3134号

購読料/半年32,130円(月額5,355円、税込)

©物流ニッポン新聞社 2008 昭和44年4月1日第三種郵便物認可

産業団地に平屋建て倉庫・点検作業場を備える



今治営業所を新設

四国の玄関口、機能を担う

宮窪総合運送(緒方龍光社長、愛媛県今治市)が建設している新しい今治営業所(同)が六月下旬にも完成する。賃借している現今治営業所は引き払い、拠点を集約することで管理体制を整える。また、五月中には中予地区にある産業廃棄物の中間処理会社を買収し、収集・運搬を含めたリサイクル事業も愛媛県一円で展開していく。

宮窪総合運送

中間処理会社を買収へ

中予地区中心・リサイクル事業展開

新今治営業所は今治市新都市(第一地区)の産業団地「クリエイティブ



本社は島しょ部(大島)だが、同営業所は西瀬戸自動車道・今治インターチェンジから車で一分掛からない好立地にあり、四国の玄関口としての機能を担う。配置車両は特殊トレーラなど四十四

ヒルズに立地し、敷地面積は九千九百平方メートル。二階建ての事務所(延べ床面積四百二十三平方メートル)や平屋建ての倉庫(八百六十八平方メートル)、点検作業場(百六平方メートル)を備えている。総工費は土地代を含めて五億円。

両、将来は採算性を考慮しながら冷凍施設も構え、食品物流に進出していく考えだ。

一方、中間処理会社は後継者不在で事業の譲渡先を探していた。同社は金融機関を仲介役として友好的に買収。これにより最終処理を除く一連の産業廃棄物事業の体制が整い、中予地区を中心に市場を開拓していく。

緒方社長は「不景気な時にどれだけ会社を伸ばせるかが重要だ。景気が良い時はどの会社も伸びるので備車を使えばいいが、景気が谷にある時の事業展開こそが当社のベースや底力となる」と話している。

(江藤 和博)